

**益田 祐美子 (ますだ・ゆみこ) 先生**

株式会社平成プロジェクト代表取締役

金城学院大学卒業、同大学での研究「高齢者用商品開発への提言と実際」が、商品研究大賞受賞。翌年通産省エネルギー大賞優秀賞受賞。

NHK岐阜・名古屋でニュース、子供向け番組に出演。

1987年、月刊「Home Economist Wise」誌記者。

1995年、中東との貿易会社キマインターナショナル設立・顧問。

現在、コンテンツ企画集団(株)平成プロジェクト代表取締役。

2011年、「瀬戸内国際こども映画祭」総合プロデューサー。



委員：内閣府「生活者の観点からの地域活性化調査」委員  
経済産業省第2・3回「ものづくり日本大賞」審査委員  
第39回技能五輪国際大会スポークスマン 他

**〈講義概要〉**

株式会社平成プロジェクトの代表取締役として、映画をプロデュースする益田祐美子氏が、主婦からプロデューサーに転身した過程や映画プロデュースに関する講義を行った。

講義では、益田氏がプロデュースした映画の予告編を流しながら、プロデューサーになるきっかけやイランでの契約に関する失敗から学んだ教訓など、様々なエピソードを交えて映画製作の実態を説明。同時に、資金と人を集めるための交渉術やコミュニケーションの重要性などについて具体的に解説しながら、契約・権利関係を理解することや世界の情勢を把握することが不可欠であることも伝えた。

また、「映画を作る目的を貫く」ことや「ものやお金がきれても人と人との心の糸が切れなければ作品は完成する」こと、「断られたときこそ人の輪を広げるチャンス」であることなど、たくさんのメッセージを学生に伝えた。

さらに、主婦や女性としての強みやその心の持ち方について、バランス感覚が重要であることなどを説き、自身の人生観を幅広く提示した。

## 《受講生の感想》

今までの授業では、映画産業については、映画の興行収入の話がほとんどでしたが、今回、益田先生の授業は、映画ができあがるまでの苦労や、お金の動きの話で、とても新鮮でした。映画を作るまでには、交渉術が大切なのだと思います。交渉やビジネスというと男性が主だと思っていましたが、益田先生を見て、女性でもできるものだと思います。女性ゆえの気づきや、感性もビジネスを成功させるための武器になると思いました。

京都女子大学・現代社会学部・2回生

私はメディア社会を専攻しているのと共に、国際インスティテュートにも所属しており、昔から国際関係に興味を持っていました。しかし、今まで、その2つの学びがどうつながっていくのか分かりませんでした。だけど、今回の益田先生の話聞いて、海外で働くには、世界の情勢の知識が必要だと知り、もっと勉強を頑張ろうと思いました。

立命館大学・産業社会学部・1回生

なんてカリスマ性のある人なんだと感動し、日本のスペシャリストにはすばらしい人がいるのだなぁという事を感じ、ひとつのドキュメントを見ているようなお話で、壮大な世界を感じました。先生は様々な人とコミュニケーションをしているからこそ、人を信用することも、注意深く疑うこともできるのだと思いました。 京都産業大学・経営学部・3回生

今回、益田先生のお話を聞いて、これから私が生きていくうえ、社会人になるうえで大切なことを学びました。自分が何かをやりたい！やろう！と決心したあとの行動力、ピンチになったときの頭の回転のはやさ、前もって知識を頭に入れておくこと、人のアドバイスを自分の中に取り入れる柔軟さ、人とのコミュニケーション能力、など、これからきっと重要になること、自分が身につけなければならないことに気付くことができました。

立命館大学・産業社会学部・1回生

大変興味深いお話で、ぜひとも『映像学部』の授業で講義してほしいです。私は今、就活をしており、映画業界を中心に考えているのですが、映画業界の大手ばかりを考えて、少し自分を見失っていたように思います。大手でないとしんどいと思ったり、映画業界の現場は女性には体力的にしんどいと、あきらめようとしていました、会社の名よりも、何よりも自分の志が大切だと改めて気づかされました。

立命館大学・映像学部・3回生

今日のお話を聞いて、粘り強く根気強く交渉を続けることの大切さを感じました。私は就職活動がうまくいかず、今とても悩んでいるのですが、毎日クヨクヨ泣いているのではなく、もっと粘り強く頑張っていこうと思いました。私には熱意が少し足りなかったなと思いました。

立命館大学・産業社会学部・4回生

